田山花袋記念館

年　報 2

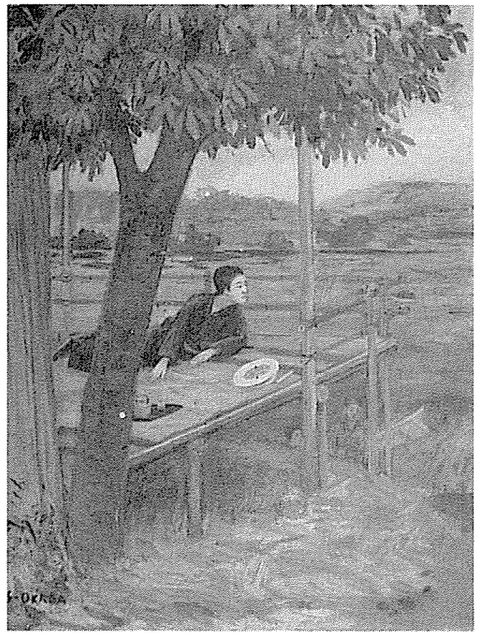
平成３年度

館林市教育委員会

目　次

- 主要事業一覧……1
- 特別展……2
- 映像記録……6
- 名誉館長田山瑞穂氏を偲んで……9
- 田山花袋没後60年記念シンポジウム……10
- 田山花袋記念館研究双書発刊……10
- 新収蔵資料……11
- 資料収集……12
- 事業費……14
- 入館者数……16

主要事業一覧



岡田三郎助画「田舎教師」口絵原画

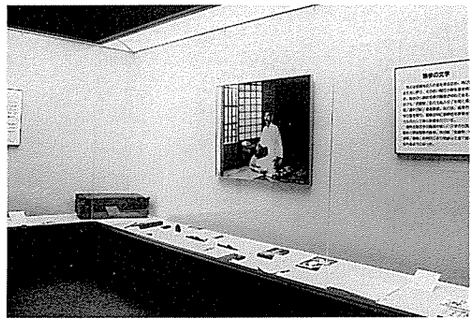
年度	特 別 展・収蔵資料展	そ の 他
63	●―花袋と友人作家―国木田独歩展 ●―作品と背景―「田舎教師」とその時代	●資料購入事業 ●資料修繕、館内燻蒸 ●研究紀要創刊 ●展示解説用ビデオ制作
元	●―花袋とその弟子―白石実三展 ●―作品と背景―代表作『蒲団』とその周辺	●資料購入事業 ●資料修繕、館内燻蒸 ●研究紀要第２号刊行
2	●―北信濃の村― 作品『重右衛門の最後』とその舞台	●資料購入事業 ●資料修繕、館内燻蒸 ●研究紀要第３号刊行 ●花袋没後60年シンポジウム
3	●第１回新収蔵資料展 ●―もう一人の『蒲団』のモデル― 永代静雄 展	●資料購入事業 ●資料修繕、館内燻蒸 ●研究紀要第４号刊行 ●研究叢書創刊

特別展

昭和63年度

第3回 特別展 ―花袋と友人作家― 国木田独歩展

昭和63年７月10日(日)
～８月31日(水)



〈展示の目的〉

花袋の親友でもあり、ともに自然主義文学を目指した作家国木田独歩の生涯と文学的足跡に関する資料を通して、花袋との交友関係や近代文学の発展課程を理解する。

〈おもな展示資料〉

Ⅰ国木田独歩関係

・自筆原稿「欺かざるの記」「可憐児」他

・著書『武蔵野』『愛弟通信』『欺かざるの記』『独歩集』『独歩集第二』他

・独歩病臥図（複製）　・独歩レリーフ　・遺品類（印章、硯、征清従軍記念章他）

Ⅱ独歩・花袋交流資料　・書簡類　・薩摩焼湯呑（独歩より贈呈）　他　計60点

〈協力機関・協力者〉

東京都近代文学博物館　神奈川近代文学館　日本近代文学館　岡野武勇氏　塩田 忠氏
中根 誠氏　程原 健氏

第4回 特別展 ―作品と背景― 「田舎教師」とその時代

平成元年３月19日(日)
～５月７日(日)



〈展示の目的〉

花袋の代表作『田舎教師』のモデルや作品の舞台となった羽生の風土に関する資料を通して、花袋が描こうとした「明治の青年像」と明治30年代の社会環境を理解する。

〈おもな展示資料〉

・岡田三郎助画「田舎教師」口絵原画

・小林三季画「みろくへの道」「田舎教師絵巻」他

・小林秀三俸給領収書　・小林秀三の日記（複製）　・小林秀三遺品（本棚、座机、燭台）

・雑誌「鴛鴦文学」　・小学校教科書　・旧制熊谷中学生徒名簿　・藍染関係資料　他計50点

〈協力者・協力機関〉　宇野益夫氏　大越英男氏　川鍋 巌氏　小林一郎氏　小林 実氏
田口郁夫氏　寺井良隆氏　中川勝雄氏　中島安夫氏（藍染ふる里資料館）　宮内芳子氏
建福寺　円照寺　羽生市郷土資料館　羽生市役所商工課（お種さんの資料館）
埼玉県立文書館　行田市立図書館

平成元年度

第5回 特別展 ―花袋とその弟子― 白石実三展

平成元年11月３日(金)
～12月10日(日)



〈展示の目的〉

花袋の愛弟子で作家の白石実三の生涯と文学的足跡を紹介する資料を通じて、弟子から見た花袋の人間像と周辺作家との関わりを理解する。

〈おもな展示資料〉

Ⅰ白石実三関係資料

・自筆原稿「一と昔」「兄弟」「旧知」他

・著書「大東京遊覧地誌」「返らぬ過去」
「ロビンソンクルーソー」(訳)「武蔵野」他　・自筆短冊　・名刺　・記録　他

Ⅱ実三・花袋交流資料　・花袋自筆短冊　・花袋自筆色紙　・花袋会記録　実三録（綴）
・書簡類　・白石実三婚姻誓詞（花袋自筆）　・花袋追悼晩餐会返書　・花袋死亡記事　他

Ⅲその他の作家の資料　・書簡類　・文学者寄書　他　計 約70点

〈協力者〉　白石男也氏　宇田川昭子氏　程原 健氏

第6回 特別展 ―作品と背景― 代表作『蒲団』とその周辺

平成２年３月25日(日)
～５月６日(日)



〈展示の目的〉

花袋の代表作『蒲団』制作の背景となった当時の社会的資料や、作中のモデルに関する資料を通して、より深く作品を理解するとともに作品の文学的位置づけを見直す。

〈おもな展示資料〉

Ⅰ岡田美知代関係資料

・自筆原稿「小夜子」「孤の仇うち」他

・著書「奴隷トム」(訳)「愛と真実」(訳)　・花袋宛書簡類　・遺品　・名刺　他

Ⅱ永代静雄関係資料　・自筆原稿「沈黙」　・著書「都会病」(訳)　・岡田美知代宛書簡

Ⅲその他　・瀬川信一画名作絵巻「蒲団」原画　・東京市牛込区全図　・日露戦争宣戦詔勅

・雑誌「新小説」第12年第９号　・雑誌「早稲田文学」(明治40年10月)　他 計70点

〈協力者・協力機関〉

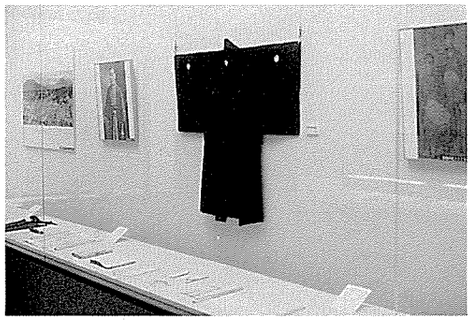
小林一郎氏　程原 健氏　新宿区立新宿歴史博物館　昭和女子大学図書館　神戸女学院大学

特　別　展

平成２年度

第７回 特別展　―北信濃の村―　作品『重右衛門の最後』とその舞台

平成２年７月22日(日)～９月９日(日)



〈展示の目的〉

花袋の初期の代表作『重右衛門の最後』のモデルや作品の舞台となった長野県三水村と花袋の友人達に関する資料を通して、作品の背景と自然主義文学の発展過程を理解する。

〈おもな展示資料〉

・藤田重右衛門関係資料（除籍謄本、戸籍調表、庫裏位牌）
・武井米蔵教員免許状　・武井米蔵著「妙高山登山記」「山樵和歌集」
・田山花袋書簡（称津栄助宛）　・田山花袋書簡（渡辺寅之助宛）　・『重右衛門の最後』
・花袋自筆原稿「カッツェンステッヒ」　・花袋自筆日記（大正２年）　他 計70点

〈協力者・協力機関〉

太田行康氏　武井清治氏　称津六男氏　平沢禎二氏　渡辺昭吉氏
勝教寺　三水村教育委員会

〈特別展入館者数〉

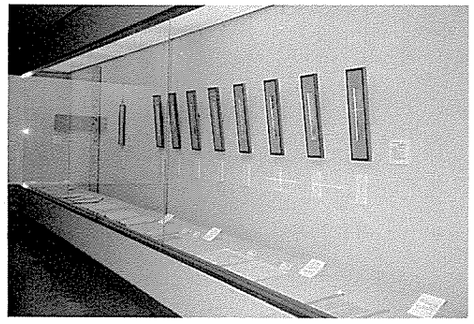
（　　）内は内数

年度	展　示　名	期　間	開館日数	入館者数(小・中学生)
63	国木田独歩展	63．７．10～８．31	53日	2,078名 (476名)
	「田舎教師」とその時代	元．３．19～５．７	50	5,319　(699　)
元	白石実三展	元．11．３～12．10	38	1,292　(58　)
	代表作『蒲団』とその周辺	２．３．25～５．６	43	3,048　(218　)
2	『重右衛門の最後』とその舞台	２．７．22～９．９	50	1,557　(208　)
3	新収蔵資料展	３．４．28～６．30	64	5,720　(384　)
	永代静雄展	３．11．３～12．11	39	1,570　(34　)

平成３年度

第１回 新収蔵資料展

平成３年４月28日(日)～６月30日(日)



〈展示の目的〉

記念館開館後に田山家をはじめ多方面から新たに収蔵した資料の中から、館林にまつわる資料を展示することにより、花袋の足跡と記念館の役割を紹介する。

〈おもな展示資料〉

・自筆板額「一柳亭」　・雑誌「小桜縅」
・武井米蔵著「京遊日記」(複写)
・翻訳原稿「カッツェンステッヒ」　・小林一意図「城沼附近之図」扁額
・漢詩集「城沼四時雑詠」　・紀行文「館林紀行」　・小説「秋の夕」
・自筆漢詩幅「観音堂畔～」　・自筆和歌短冊「花おほき～」　・遺品類　他 計約50点

〈資料提供者〉

小田　幸氏　加藤富美子氏　佐野弥生氏　武井清治氏　田山瑞穂氏　中野ちよ氏
山崎信雄氏

第８回 特別展　―もう一人の『蒲団』のモデル―　永代静雄展

平成３年11月３日(土)～12月11日(水)



〈展示の目的〉

岡田美知代とともに花袋の代表作『蒲団』『縁』のモデルとなった永代静雄の生涯、文学的足跡を紹介することにより、作品の背景や作品には描かれなかった静雄像を理解する。

〈おもな展示資料〉

Ⅰ『蒲団』『縁』関係資料
・雑誌「新小説」　・花袋著書『縁』
・名作絵巻「蒲団」原画　・永代静雄書簡（岡田美知代宛）　・岡田美知代財布
Ⅱ永代静雄関係資料　・『永代静雄伝』　・雑誌「普鳴」(合本)　・「日本新聞年鑑」
・自筆日記　・自筆原稿　・著書『都会病』(訳)　・遺品類　・写真類　他 計70点

〈協力者・協力機関〉

永代錄一氏　永代喜久子氏
日本基督教団神戸教会　早稲田大学　吉川町役場

映像記録

田山花袋の文学――小林一郎

小林一郎氏　略歴



大正５（1916）年、群馬県桐生市に生まれる。東洋大学文学部国文学科卒業。文学博士、館林市田山花袋研究顧問。日本近代文学専攻。資料の集積にもとづく実証的研究で、田山花袋研究の第一人者となる。主な著書に『田山花袋研究』全10巻（昭和51～59年桜楓社）、『自然主義作家　田山花袋』(昭和57年　新典社)、『川端康成研究―東洋的な世界』(昭和57年　明治書院)、『太宰文学の光と影』(昭和62年　右文書院)、『夏目漱石の研究』(平成元年　至文堂)、『日本文学の心情と理念』(平成２年　明治書院）などがある。また、『田山花袋記念館研究叢書 第一巻 田山花袋宛柳田国男書簡集』の研究編の執筆者でもある。

〈採録内容〉

Q　：「田山花袋という人について、先生は長年ご研究をなさっている訳ですが、一言でいってどういう人といっていいでしょうかね』

小林：「大きさがあり、包容力がありますから、皆大事に、一人一人を寄せつけて、そして相手を育てていく、そういう大きな気持ちがあった人ですね。そして同時に新しいものを見て吸収していく。必ず実際にあったものを自分で体験して、自分の目で見たものでないと信用しないんですよ、彼はね。だから観察ってものが自然主義でも……自然主義じゃなくても文学というものは観察がきちんとしてなくてはダメでしょうね。人から与えられたものではダメですね。自分で見たもの体験したものでないと……」

「もう１つ大切なことはね、都会だけに文学はないってことですよ。地方っていうものを大切にする、ローカルっていうものを大切にしなきゃダメだ。それが旅で歩くこととつながっていったわけですよ』

Q　：「国木田独歩の存在も非常に重要なんですか？」

小林：「これは非常に大きいですね。ローカル性の問題とか地域社会、地方の問題というのを扱うようになったことのひき出し役になっているのと、やっぱり、それから柳田さんが常民文化の研究に行くのも官を辞めてそっちに行かれるものね。独歩の存在が大きかったと思うんですよ』

「だから小民ってことを非常に大事にする人ですね。名もない一般の人ね』

Q　：「小民？」

小林：「小さな民、『小民』だから彼が『欺かざるの記』という……近代文学史上有名な日記文学に一葉の日記と、独歩の『欺かざるの記』というのは双璧なんですけども……その中ではっきり書いているんです。人類の歴史っていうものはね、大民の歴史ばっかり綴ってもだめだと。宰相がどうだとか将軍がどうだとかやってもだめだと。もっとたくさんの、その国を支えている小民ってのがいっぱいいて、それが初めて、国家なら国家、社会なら社会を作っていると。小民の歴史をつくることによって、人類の歴史は全からんと言っているんですよ』

「そういう考え方が結局、柳田国男、花袋に流れていくんですよ。小民というものに目を向ける、ローカルを大事にするってことがね』

Q　：「日露戦争の体験に関しても彼は書いてますね』

小林：「軍の報道班とか写真班なんてのは、激戦になると食料も与えられないんですから。危険な場所なんて教えてくれないんですから。だから、いざびっくりすると戦争の真只中にいるわけです。砲弾がとんできたりなんかして。なんで教えてくれないんだろうか……なんで食料をまわしてくれないんだろうとか。いわゆる、主流にいない者の悲哀ですよね……そういう事を教えられた訳です。それからもう１つは、観察者ってものは戦争の真只中で兵隊と同じように動いてたんじゃ本当はわからない。やっぱり、戦争というものを距離をおいて客観的に見られなくちゃわからない。この二つを学んだんですよ。これが彼の『傍観者』という考え方です。『傍観者』の立場というのをそこで身につけたんですよ。実際の戦争をくぐりぬけてきて、生き死にの経験を経てきて、把んだんですね』

Q　：「歴史小説と今日呼ばれるようなジャンルにも入ってきましたですね』

小林：「鷗外の方が非常に合理的ですね。質的に書いてきますね。何か……鷗外っていう人は、私からみると、花袋と比べると歴史小説にしても、大きさが足りないんじゃないかという感じがしますね。花袋はもっと、全人間的な形で歴史小

説を書いていますね。そういうところに花袋の歴史小説を作る姿勢があったんじゃないですかね。もっと大きな、人間の全体の中で包容しながら、その中に動いて、そしてやがて亡くなっていく人間の姿っていうのを本当に暖かい目でね』

「歴史小説だけでないんですよ。しまいには、家庭の問題に全部入り込む。親の恋愛と子供の恋愛とを対比させて書きますからね』

Q　：「極めて、今日的じゃないですか』

小林：「今日的なんです。その対比の中で一体『家』とは『家庭』というのはどういうものだろうということを、つきつめているんですよ。子供は子供の考えで生活すればいいんだ、俺は俺の考え方でやるよ。しかし、全体から見ると、それは、どういうふうにして融合したらいいんだろうと。そういう問題を終り頃には真剣につきつめてくるんですよ』

「だから、新しい文学を作る時、それは大変だったんですよ』



採 録 日　昭和63年12月
採録場所　田山花袋記念館
展示解説用ＶＴＲとして放映中

名誉館長　田山瑞穂氏を偲んで

昭和62年の田山花袋記念館の開館以来、名誉館長としてご協力いただいてきた田山瑞穂氏が、平成２年８月15日、満86歳で逝去いたしました。瑞穂氏は田山花袋の次男として、花袋亡きあとは父としての花袋を語り続けたほか、花袋の血を受け継ぎ和歌の創作に秀でたものがありました。

記念館の建設にあたり、瑞穂氏から提供いただいた花袋関係資料4000点は記念館活動の核となり、全国でも近代文学史上第一級資料となっています。



田山 瑞穂 氏
（昭和62年、田山花袋記念館にて）

〈田山瑞穂 氏 略 歴〉

明治37年　２月21日、田山花袋・里さの次男として東京に生まれる。
昭和４年　法政大学文学部文学科卒業
昭和５年　５月13日、父花袋没。
　海軍省軍令部特務班に就職（～20年）。
昭和12年　「花袋全集月報」に「父を語る」を連載。
昭和17年　三上とも氏と結婚。
昭和21年　国際外国語学校に就職。
昭和24年　田山花袋歌碑（館林市尾曳稲荷神社境内）の除幕式に出席。
　雑誌「創作」に父花袋について執筆。
昭和26年　目黒区立第三中学校教諭（～40年）。
昭和40年　中野区立富士見中学校教諭（～49年）。
昭和44年　４月30日、母里さ没。
昭和58年　田山花袋胸像（館林市第二資料館内）の除幕式に出席。
昭和62年　４月18日、田山花袋記念館開館。名誉館長に就任。
平成２年　８月15日、東京都世田谷区の自宅で死去。



昭和24年、尾曳稲荷神社境内の田山花袋歌碑除幕式。（前列右より２番目 瑞穂氏）



昭和62年４月18日、田山花袋記念館開館式。（左より２番目 瑞穂氏）

普　及

田山花袋没後60年記念シンポジウム
田山花袋に迫る

平成２年11月11日(日)
文化会館小ホール

平成２年は、昭和５年に花袋が亡くなってから60年目にあたるため、それを記念してシンポジウムが行われました。

パネラーとして館林市田山花袋研究顧問の小林一郎氏、早稲田大学教授の紅野敏郎氏、東京女学館短期大学助教授の尾形明子氏、作家で近畿大学教授の後藤明生氏を迎え、約３時間にわたり、花袋について様々な角度から熱心な討論が交わされました。

〈内容〉

基調講演

「花袋へのアプローチ」　小林一郎

シンポジウム

「近代文学における花袋文学」　紅野敏郎
「花袋の女性観」　尾形明子
「花袋の今日的意義」　後藤明生

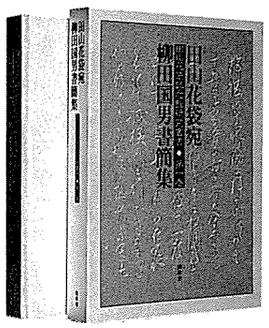


調査研究の集大成――「田山花袋記念館研究叢書」刊行

田山花袋記念館に収蔵されている資料は、ほとんどが未公開のまま田山家に保存されていたものです。これらは今までの花袋研究の疑問点を解決していくうえでの貴重な資料となるばかりでなく、近代文学研究全体にも大きな影響を及ぼすものと考えられます。

記念館ではこれらの資料の調査や研究の成果を「田山花袋記念館研究紀要」として、昭和63年度より毎年１号ずつ刊行しています。

また、研究紀要のほか、未発表資料をテーマ別に集大成した本格的な研究図書「田山花袋記念館研究叢書」が新たに刊行されました。本年度刊行された第一巻は「田山花袋宛柳田国男書簡集」で、民俗学者柳田国男が花袋に宛てた書簡117通を収録したものです。若い時に和歌を通して知り合い、無二の親友となった二人の深い交友関係を知ることができます。また、若き日の柳田の人間像を知ることのできる資料として、民俗学の研究者からも大変注目されています。



収蔵資料の調査研究の成果は、今後も順次発表していく予定です。

新収蔵資料

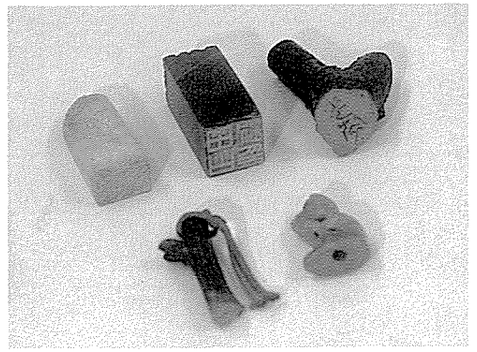
田山家資料

昭和62年の開館に先立ち、田山花袋の次男田山瑞穂氏から、花袋の原稿や書簡、遺品類など約4000点の資料をご寄贈いただきましたが、さらに平成３年11月には、瑞穂氏の逝去に伴い、花袋の著書や遺品、原稿、瑞穂氏が父花袋について書いた未発表原稿など約2500点が遺族より寄贈されました。こうした収蔵資料の充実により、花袋の人となりを追求できるといえましょう。

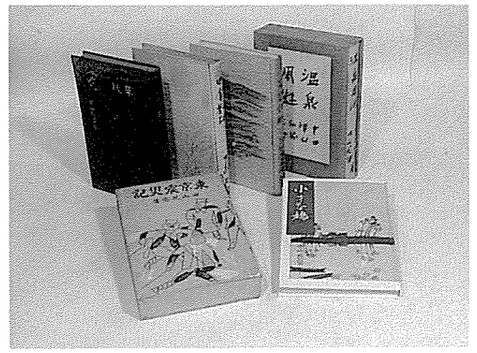
なお、これらの資料は、新収蔵資料展や特別展などで紹介していく予定です。

〈おもな寄贈資料〉

・岡田三郎助画「田舎教師」口絵原画
・橋本邦助画「妻」口絵原画
・高村光雲作恵比須・大黒像（ブロンズ）
・紫壇飾り棚（生誕50年記念品）
・遺品類　・初版本　・原稿　・書簡　など



愛用の落款



寄贈された初版本の一部

岩永コレクション

平成２～３年にかけて、花袋の研究家だった故岩永胖(ゆたか)東京学芸大学教授のご遺族より、花袋をはじめ国木田独歩、徳田秋声など自然主義文学を代表する作家たちの資料が寄贈されました。花袋のみならず、近代文学を研究するうえで貴重な資料です。



〈平成２年度寄贈資料〉　・「城沼四時雑詠」　・「館林紀行」　・「秋の夕」　・「歌会記事」
・「送田山花袋君遊畿率賦」　・「妙高山登山記」　・「汲古堂僑虚雑詩」　他　８点

〈平成３年度寄贈資料〉　・田山花袋書簡（飯田代子宛）　・田山花袋書簡（太田玉茗宛）
・松岡（柳田）国男書簡（太田玉茗宛）　・国木田独歩原稿「欺かざるの記」序文　他　10点

資料収集

◆収蔵資料分類別総点数

（平成４年３月31日現在）

	分類・年度		62	63	元	2	3	合計	
田山家受入資料	書簡類	書簡	2,000	8	71	15	110	2,204	
		名刺	367	1	37	21	407	833	
		その他	15					15	3,052
	作品類	書	69			3	14	86	
		原稿	97	18	7	5	4	131	
		発表資料	96			18	22	136	
		瑞穂原稿					186	186	
		その他	29		1	4	99	133	672
	書籍	洋書	213				110	323	
		雑誌	8				96	104	
		花袋著書	45			4	470	519	
		その他	73				453	526	1,472
	記録資料	花袋関係記録	68	10		10	20	108	
		田山家関係記録	71			1	134	206	
		地図	345			4	7	356	
		その他	15			1	35	51	721
	遺品	使用品	147	1	2	3	144	294	
		その他	1					1	295
	写真	写真	77	18	2	65	116	278	
		その他	43				14	57	335
	その他						24	24	24
	合計		3,779	55	118	154	2,465		6,571
一般受入資料	書簡		13					13	13
	作品類	書（和歌類）	8		1	8		17	
		書（漢詩類）	2			1	1	4	
		原稿類	4					4	
		その他	2	1	1			4	29
	書籍・出版物	雑誌	22	8	68	5	5	102	
		花袋著者	24	4	46	6	5	85	
		関連作家著者	4		33		1	38	
		研究書			29	1		30	
		伝記・評伝			16			16	
		その他			3	1		4	275
	記録資料		1					1	1
	遺品類	田山家遺品	1					1	
		その他					1	1	2
	写真		1					1	1
	コレクション					8	10	18	18
	その他		4	2	1			7	7
	合計		86	9	198	30	23		346
総計			3,865	64	316	184	2,488		6,917

◆寄贈資料

年度	資料名	点数	住所 氏名
元年度	青縞・藍染め糸	6	
	小林一意画「城沼附近之図」	1	
	自筆和歌短冊「花おほき～」	1	
	岩永胖著『田山花袋研究』	1	
2年度	漢詩集「城沼四時雑詠」他	8	
	文芸百科全書	1	
	版本『温泉めぐり』(復刻)	1	
	文庫本『東京近郊一日の行楽』	1	
	自筆漢詩幅「観音堂畔～」	1	
3年度	雑誌「明治の文章・明治の文学」	1	
	田山花袋書簡（飯田代子宛）他	10	
	財布（岡田美知代遺品）	1	
	版本『日本一周』(全３巻)	3	
	版本『東京震災記』(復刻)	1	

◆購入資料

昭和63年度		平成元年度	
版本『インキ壺』	1点	版本『縁』ほか花袋著書（単行本）	5点
〃 『花袋文話』	1	花袋著書（合著）	41
雑誌「小桜縅」四巻、五巻	2	雑誌「新小説」ほか	68
版本『ふるさと』	1	関連作家図書類	33
〃 『小春傘』	1	その他参考図書	47
瀬川信一画「蒲団」原画	100		

平成２年度		平成３年度	
版本『新選名勝地誌』巻四、巻九	2点	雑誌「新小説」(第12年第９号)	1点
〃 『哥薩克兵』	1	自筆漢詩幅「太湖三萬六千頃～」	1
片岡良一著『近代日本の作家と作品』	1	永代静雄著『天体旅行』	1
雑誌「中央公論」第40年第13号	1	雑誌「新聞の新聞」67号	1
〃 「婦人公論」第６年第11号、第12号	2	〃 「帝国画報」第２年第11巻	1
「短編の愉楽１」	1	〃 「早稲田文学」(復刻版) 第１～５巻	5
自筆和歌短冊（棚倉関係）	8	「短編の愉楽３」	1
雑誌「新聲」(復刻合本)	24		
〃 「文章世界」第１巻第１号	1		

事業費

〈歳入概要〉

年度	事業名	金額	内訳	
63	入館料	1,814,280円	個人 一般	1,553,400円
			小・中学生	55,350
			団体 一般	200,800
			小・中学生	2,730
元	入館料	1,827,580	個人 一般	1,565,400
			小・中学生	60,800
			団体 一般	195,800
			小・中学生	5,580
2	入館料	1,215,690	個人 一般	1,005,800
			小・中学生	38,200
			団体 一般	169,800
			小・中学生	1,890
3	入館料	1,732,810	個人 一般	1,460,600
			小・中学生	47,350
			団体 一般	224,800
			小・中学生	60

〈歳出概要〉

年度	事業名	金額	内訳	
63	館運営事業費	7,348,984円	・管理委託費	1,756,000円
			・光熱水費	1,983,877
			・その他	3,609,107
	資料購入事業費	1,146,200		
	保存整理事業費	2,043,000	・資料修繕費	1,141,000
			・燻蒸	750,000
			・その他	152,000
	調査研究事業費	620,000	・研究紀要印刷費	
	展示普及事業費	2,819,100	・国木田独歩展	1,310,390
			・「田舎教師」展	908,710
			・展示解説用ビデオ制作料	600,000
	合計	13,977,284		

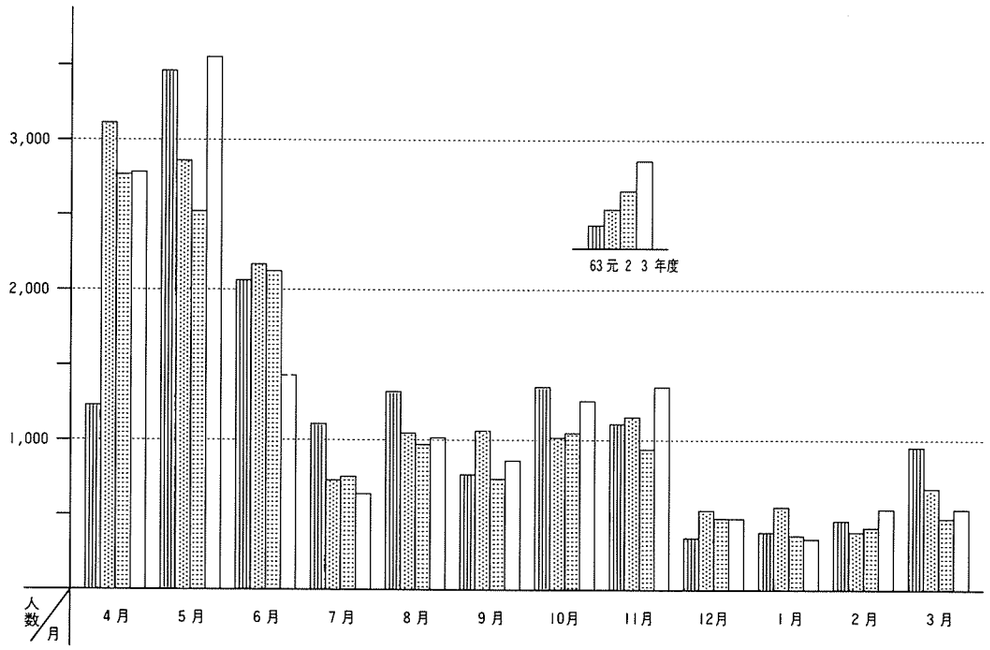
年度	事業名	金額	内訳	
元	館運営事業費	6,090,624円	・管理委託費	1,946,230円
			・光熱水費	1,883,680
			・その他	2,260,714
	資料購入事業費	1,144,866		
	保存整理事業費	3,044,268	・資料修繕費	2,297,518
			・燻蒸委託費	746,750
	調査研究事業費	900,000	・研究紀要印刷費	
	展示普及事業費	2,108,327	・白石実三展	984,996
			・『蒲団』展	1,123,331
	合計	13,288,085		
2	館運営事業費	5,851,030	・管理委託費	1,919,096
			・光熱水費	2,068,616
			・その他	1,863,318
	資料購入事業費	1,253,740		
	保存整理事業費	1,647,073	・資料修繕費	788,053
			・木製保存ケース購入費	103,000
			・燻蒸委託費	756,020
	調査研究事業費	515,000	・研究紀要印刷費	
	展示普及事業費	1,768,844	・『重右衛門の最後』展	1,316,464
			・花袋没後60年シンポジウム	452,380
	合計	11,035,687		
3	館運営事業費	5,574,395	・管理委託費	1,939,413
			・光熱水費	2,287,681
			・その他	1,347,301
	資料購入事業費	2,668,080		
	保存整理事業費	4,036,816	・資料修繕費	1,088,092
			・木製保存ケース購入費	1,025,920
			・燻蒸委託費	840,274
			・ハロン化物消化設備収繕	1,082,530
	調査研究事業費	8,203,000	・研究紀要印刷費	581,000
			・研究叢書印刷費	7,622,000
	展示普及事業費	1,094,010	・新収蔵資料展	184,660
			・永代静雄展	909,354
	合計	21,576,301		

入館者数

〈入館者状況〉　　※(　　)内は内数

年度	開館日数	入館者数（小・中学生）	団体				
			施設見学	学校見学	文学散歩	その他	合　計
62	288日	23,456名(3,390名)	398名	1,529名	1,709名	1,851名	5,487名
63	353	14,667　(1,447　)	443	358	1,227	1,827	3,855
元	354	15,186　(1,841　)	482	835	886	1,765	3,968
2	353	11,574　(　830　)	213	403	854	1,457	2,927
3	354	14,058　(1,169　)	403	865	978	1,351	3,597
合計	1,702	78,941　(8,677　)	1,939	3,990	5,654	8,251	19,834

〈月別利用者状況〉



田山花袋記念館　年報２
発　行　館林市教育委員会文化振興課
発行日　平成３年３月31日

田山花袋記念館
〒374 館林市城町１－３
ＴＥＬ 0276 (74) 5100

施設案内

位　置　館林市城町１番３号
構　造　鉄筋コンクリート造 平家建
規　模　敷地面積　1335㎡
　　建築面積　553㎡
　　延床面積　488㎡
施設内容　常設展示室　144㎡
　　企画展示室　108㎡
　　収蔵庫　30㎡
　　特別収蔵庫　48㎡
　　研究閲覧室　22.88㎡
　　事務室　18.72㎡
　　ホール・便所 他　116.4㎡
総事業費　約230,000千円
開　館　昭和62年４月18日

